

英語科 学習指導案

- 1 日時 平成21年11月20日(金) 14:20~15:10
- 2 学年・学級 3年1組 (男子 11名 女子 15名)
- 3 単元 Unit 6 20th Century Greats (New Horizon English Course Book 3)

4 単元設定の理由

教材観

本単元は、名詞を後ろから修飾する「後置修飾」のまとめをめざす単元である。これまで学習してきた「前置詞句」によるもの、「不定詞によるもの」、「現在分詞・過去分詞」によるものに加え、ここでは、接触節や関係代名詞(who, which, that)による後置修飾を扱う。先行詞の人や物について修飾する用法を理解することで、これまでよりも難しい説明文なども読むことができるようになることが期待できる。題材として、アメリカの科学者レイチェル・カーソンの偉業や伝記の要点を読み取る活動を行う。彼女の業績や生涯を知ること、環境問題に対する意識を高めることもできる。

また、まとめとして、学習した表現を用いて英語でのレポート作りに取り組み活動を取り入れている。偉人についてのレポートを作成することで、自己表現の幅を広げることができる単元である。

生徒観

ペアワークやインタビュー活動など「話す・聞く」活動には積極的に取り組む。しかし、基礎的事項や既習の文型が定着していないために、「書く」力が弱い生徒が多い。定期テストなどの結果から見ても、習熟度の個人差がかなり大きいのが実態である。少人数では教えあいなど協力して活動がよくでき、支え合って学習に取り組む雰囲気がある。

指導観

英語科では、「表現の活動(話す・書く)」の場を設定する授業に取り組んできた。話す・書く活動は、各単位時間の授業で「わかった・できた」学習内容を積み重ねて、自分が言いたいことを話したり、書いたりすることによって「英語が使える」ことをめざしている。そのために、各授業では新文型の理解とドリルを十分に行い、4技能をバランスよく習得させる活動を工夫している。本単元で学習する「後置修飾」についても、その用法についてしっかり習得した上で、さらにレポート作成により、自分の言葉で発表する活動を通して、「書くこと・話すこと」の能力を高めることを目指す。また、基本的な語彙や文型を十分に定着させるために、必ず復習的な活動を入れて、1時間の授業を組み立てている。既習事項を繰り返し聞いたり、書いたりする活動を通して、理解に比較的時間がかかる生徒にも、達成感を持たせるようにする。

5 指導計画と時間配当

- (1) Starting Out (1時間)
- ・接触節と形・意味・用法を理解し、表現する。
- (2) Dialog (2時間 本時 1/2)
- ・関係代名詞 who を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現する。
 - ・対話を通してレイチェル・カーソンがどのような人なのかおおまかに知る。
- (3) Reading for Communication (3時間)
- ・関係代名詞 that(which)を用いた文の形・意味・用法を理解する。
 - ・カーソンの業績と生涯について読み取る。
- (4) まとめ (3時間)
- ・後置修飾の形について復習し、理解を深める。
 - ・自分が選んだ偉人についてレポートを書いて発表する。

6 本時の目標(ねらい)

- (1) 本時の指導目標
- ・人物を説明する英語を聞いたり、読んだりして理解できる。
 - ・関係代名詞を使って、友達などの人物について説明する英文が書ける。
- 目標文 Carson is the scientist who wrote *Silent Spring*.
カーソンは沈黙の春を書いた科学者です。

(2) 本時の評価規準

関係代名詞 who を用いた文の用法を理解できる。

A ワークシートに意味を正しく書き込むことができている。

B ワークシートに意味を概ね書くことができている。

関係代名詞を使って英文を書くことができる。

A 関係代名詞を用いた英文を3文以上正しく書くことができている。

B 関係代名詞を用いた英文を2文は書くことができている。

(努力を要する生徒への支援の例)

・板書やカードの工夫により、語順等を確認しやすいようにする。

7 本時の学習展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	支援・評価 留意点
導入	1 Greetings 2 Warm-up ・Q-A(T-S, ペアワーク) ・Dictation 3 Review ・既習の後置修飾についての復習 ・Unit 6 Starting out の音読	・ペアでQ-Aを行う。 ・既習の英文を聞き取って書く。 ・いろいろな形の後置修飾を思い出し、日本語から英語にする。 ・ペアで音読の確認をする。	・英語の雰囲気づくりをする。 ・既習文型の確認をテンポよく行う。
展開	4 Oral Introduction of Today's material ・英語を聞き取る ・後置修飾の形に気づく 5 Pattern Practice ・いろいろな人物について口頭表現する 6 Activity ・who を使って「話す」活動を行う ・who を使った英文を書く ・書いた英文を発表する	・どの人のことをいっているか、聞き取ろう。 (例) This is the man who invented the telephone. ・英文はどんな形をしているか。 ・ワークシートで who を用いた例文の意味を読み取ろう。 ・who を含む英文をすらすら言えるようになろう。 ・who を使った英文で当てはまる人を探そう。 (例) Do you know someone who studies math hard? ・集めた情報を英語で書いてみよう。 (例) Yoko is a student who studies math hard.	・ピクチャーカードを使う。 《支》板書により文の形を整理する。 [知] 関係代名詞 who を含む英文の形や意味を理解することができたか。 (ワークシート・発表) ・文の形を意識して読ませる。 ・口頭練習を十分に行う。 《支》対話の仕方を板書する。 [意] 積極的に英語で対話しようとしているか。(観察) ・できるだけたくさん書くように指示する。 ・グループで助け合うよう促す。 [表] who を含む英文を書くことができたか。(ワークシート)
終末	7 Summery ・目標文の理解を確認する ・振り返り	・「～する(人)」と言うとき、英語ではどう表現しますか。 ・学習記録に記入しよう。	・よかった点を評価する。

